

島根県政に係る県民意識

I. 島根県政県民意識調査

1. 調査の趣旨

- 県の施策に関して県民の意識を把握し、今後の政策・施策の立案等に反映させるため、分析を行うもの。

2. 調査の方法

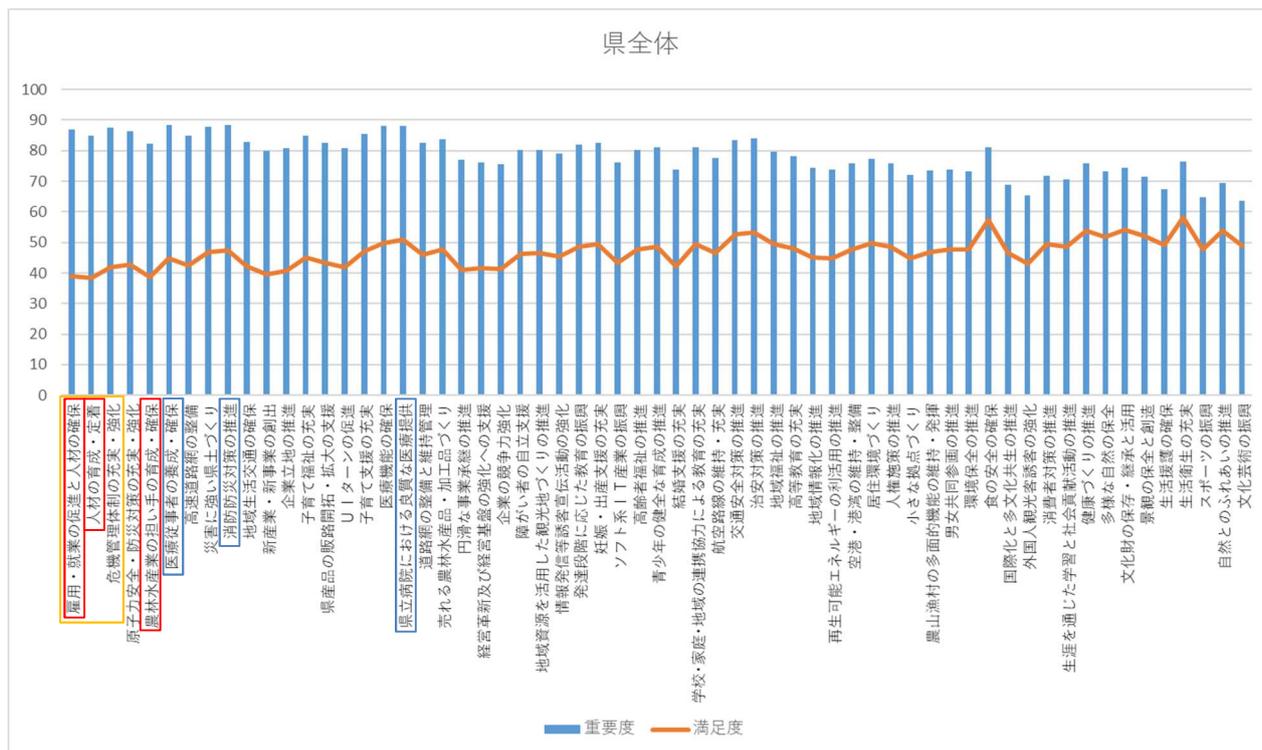
- 県内に居住する満18歳以上の男女4,500人を対象に、県政への県民意識（施策に対する重要度、満足度）についてアンケートを実施。
 - ・調査期間：令和元年5月30日～6月14日
 - ・回収率：47.5%、有効回答率：46.4%
- 各施策の重要度、満足度について、以下のようにアンケートの回答を数値化し、集計した平均点を重要度・満足度として上位3項目の分析を行った。

「かなり重要である」	「かなり満足している」	・・・100点
「やや重要である」	「やや満足している」	・・・75点
「どちらともいえない」	・・・・・・・・・・・・・・・・	50点
「あまり重要ではない」	「あまり満足していない」	・・・25点
「全く重要ではない」	「全く満足していない」	・・・0点

3. 調査結果

(1) 県全域・全年齢層の県民意識

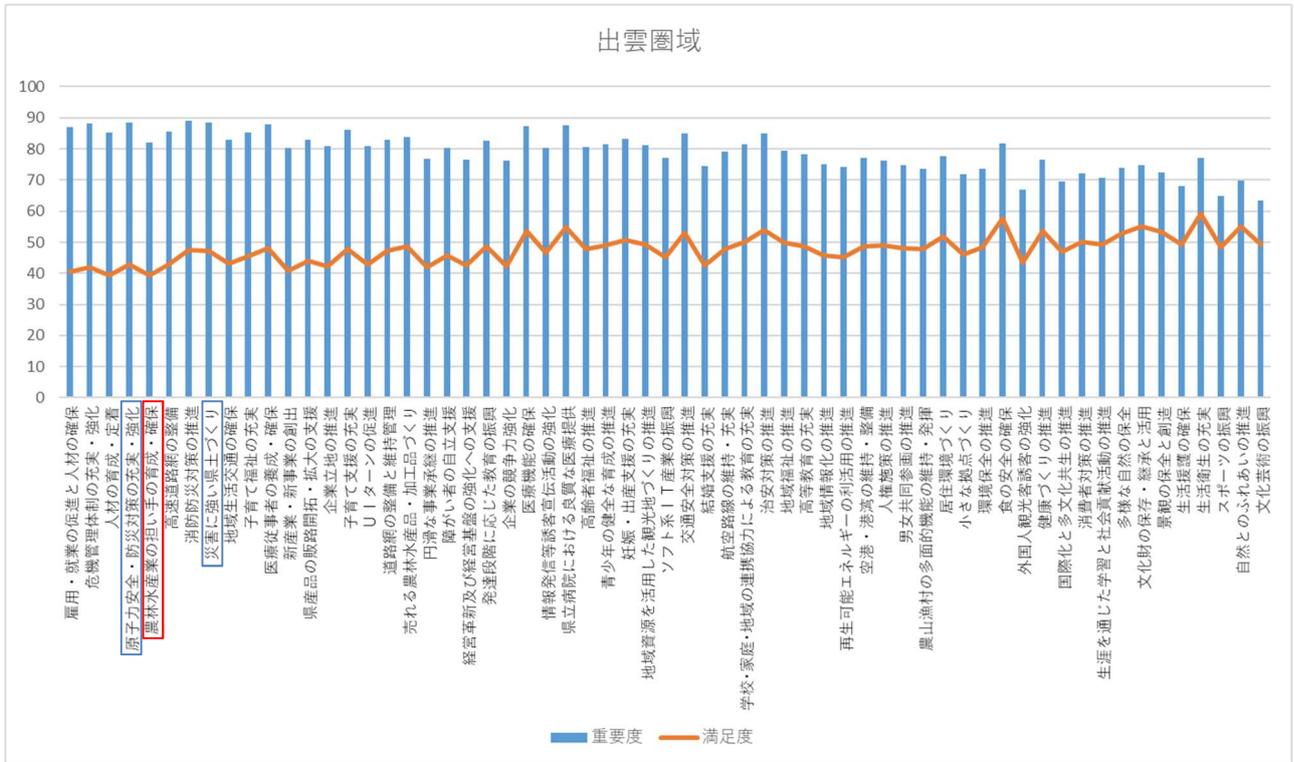
- 県全域の全年齢層の県民のアンケート結果からは、重要度が高い施策としては、「消防防災対策の推進」、「医療従事者の養成・確保」及び「県立病院における良質な医療提供」が上位を占め、また、満足度が低い施策としては、「人材の育成・定着」、「農林水産業の担い手の育成・確保」及び「雇用・就業の促進と人材の確保」が上位を占めた。
- 一方、「雇用・就業の促進と人材の確保」、「人材の育成・定着」及び「危機管理体制の充実・強化」といった施策については、重要度と満足度の差が大きい結果となった。



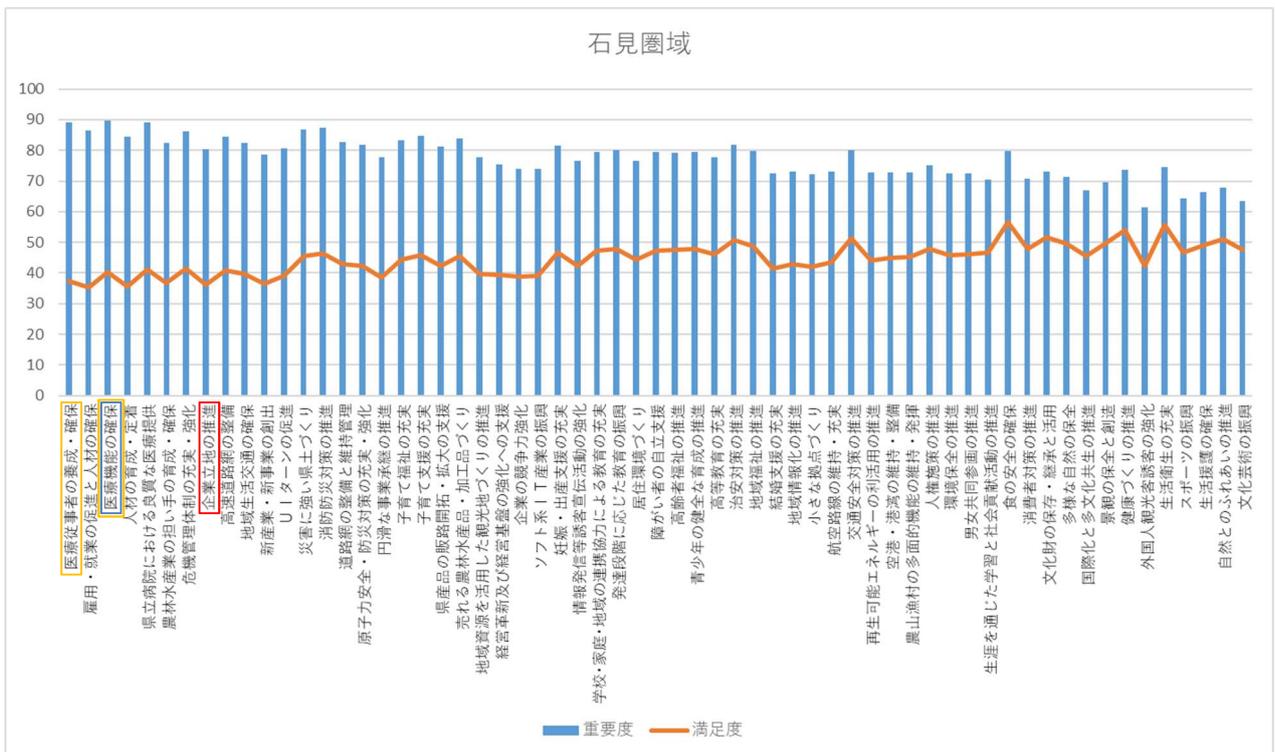
- : 重要度が高い施策
- : 満足度が低い施策
- : 重要度と満足度の差が大きい施策

(2) 県域別の分析

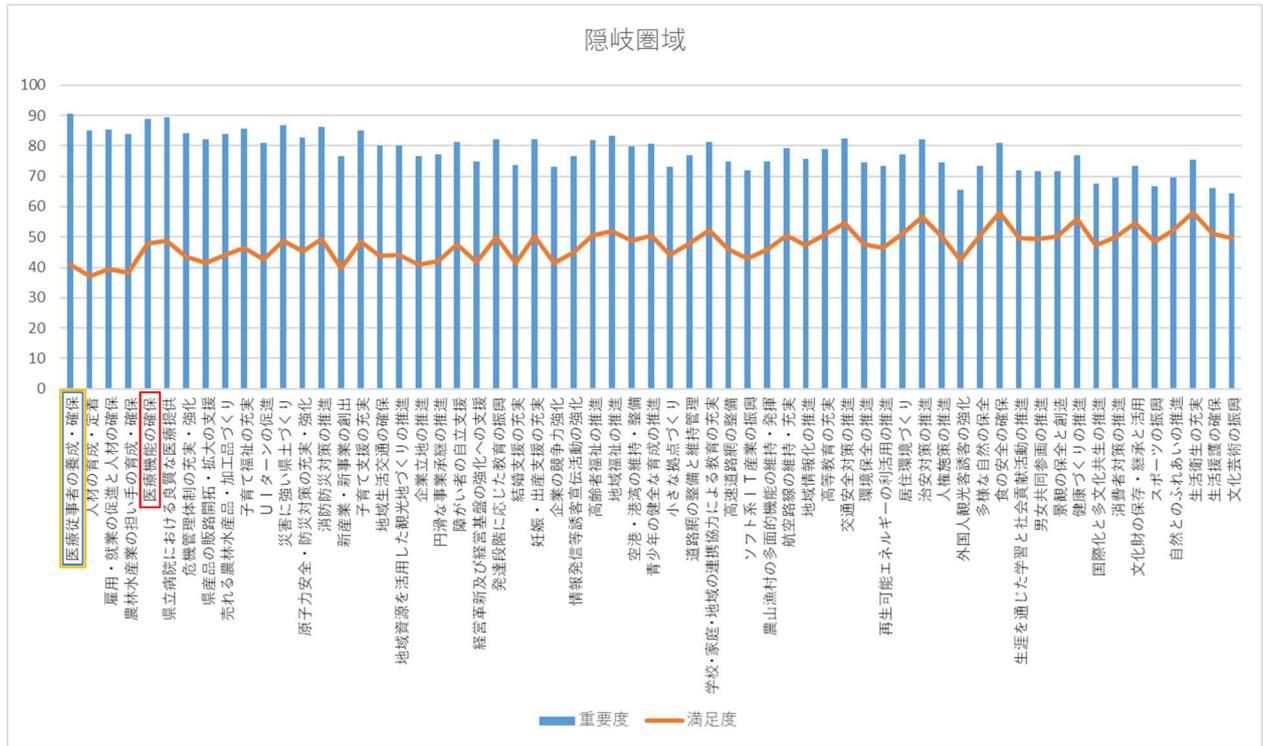
- 出雲圏域では、県全域と比べ、「原子力安全・防災対策の充実・強化」及び「災害に強い県土づくり」の重要度が高く、「農林水産業の担い手の育成・確保」の満足度が最も低い特徴が見られた。



- 石見圏域では、県全域と比べ、「医療機能の確保」の重要度が最も高く、「企業立地の推進」の満足度が低いという特徴が見られた。また、「医療従事者の養成・確保」及び「医療機能の確保」が、重要度と満足度の差が大きい施策として上位に挙がった。

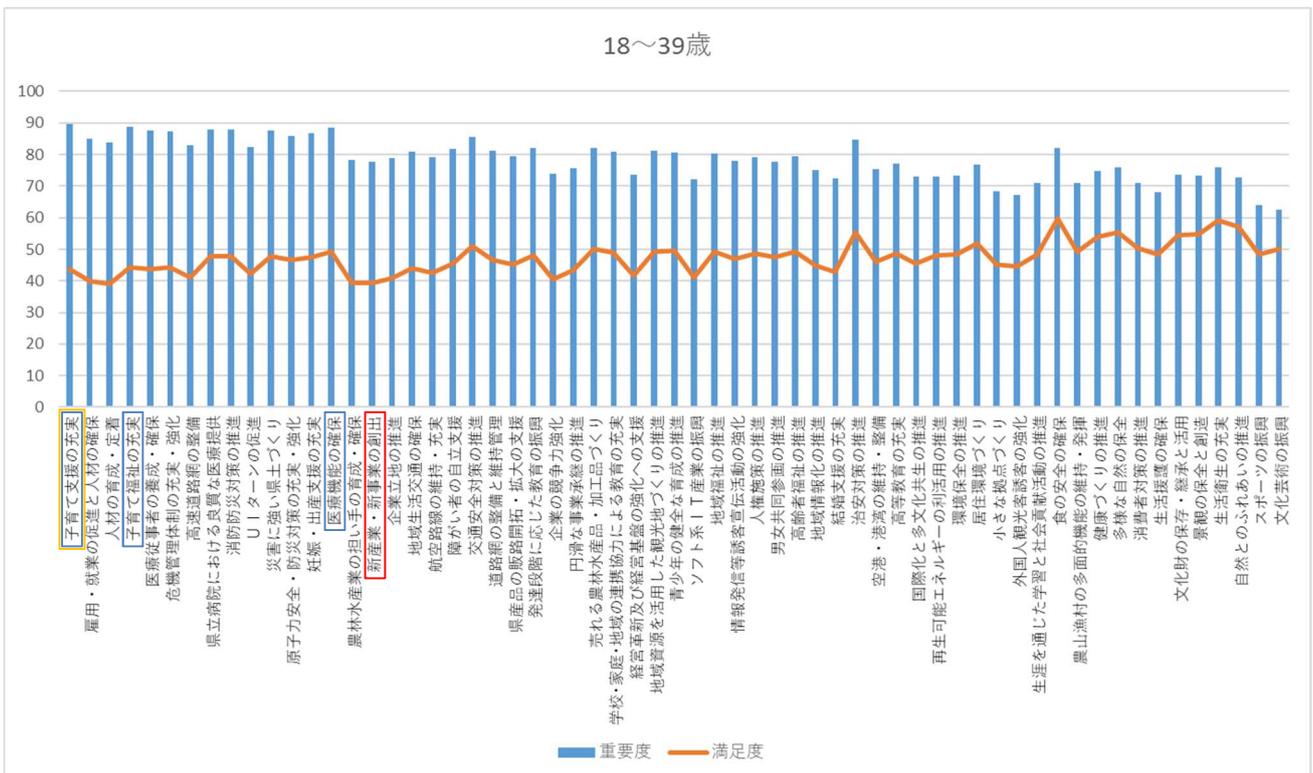


○ 隠岐圏域では、県全域と比べ、「医療従事者の養成・確保」の重要度が最も高く、また「医療機能の確保」の重要度も高かった。また、「医療従事者の養成・確保」が、重要度と満足度の差が最も大きい施策だった。

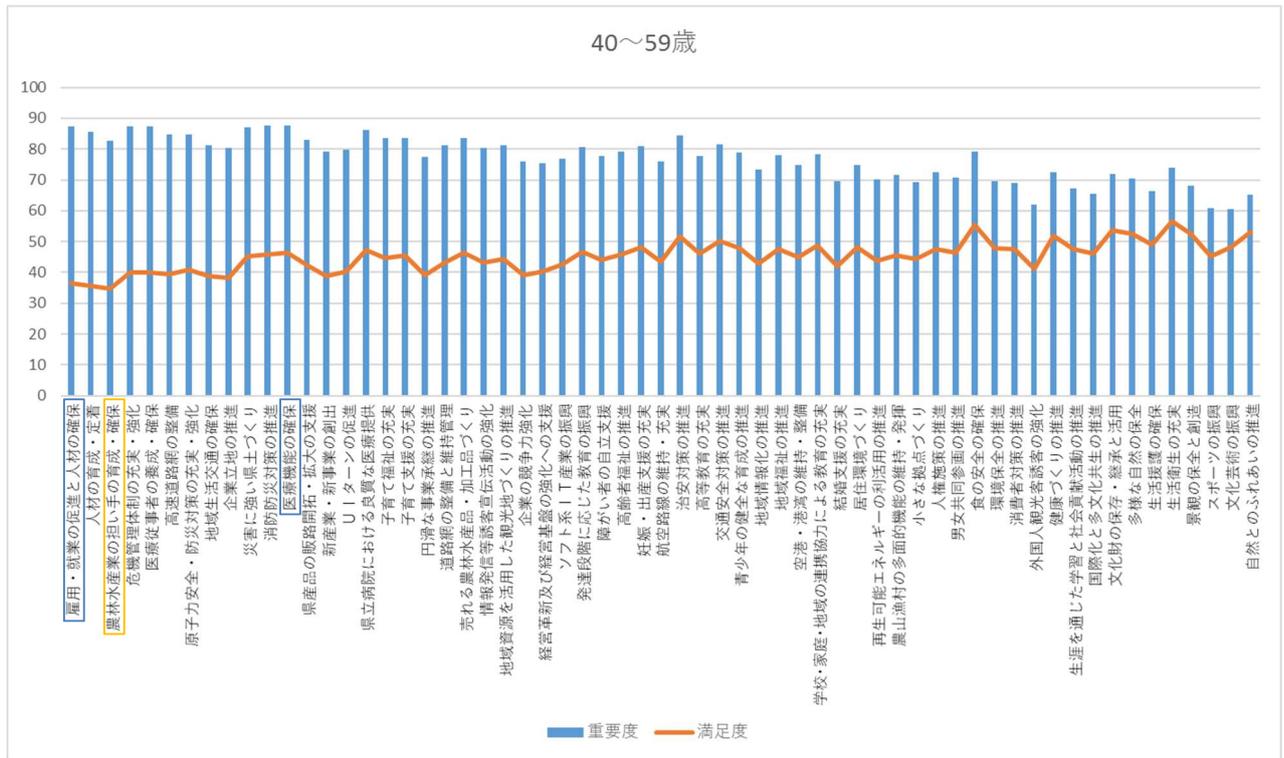


(3) 年齢別の分析

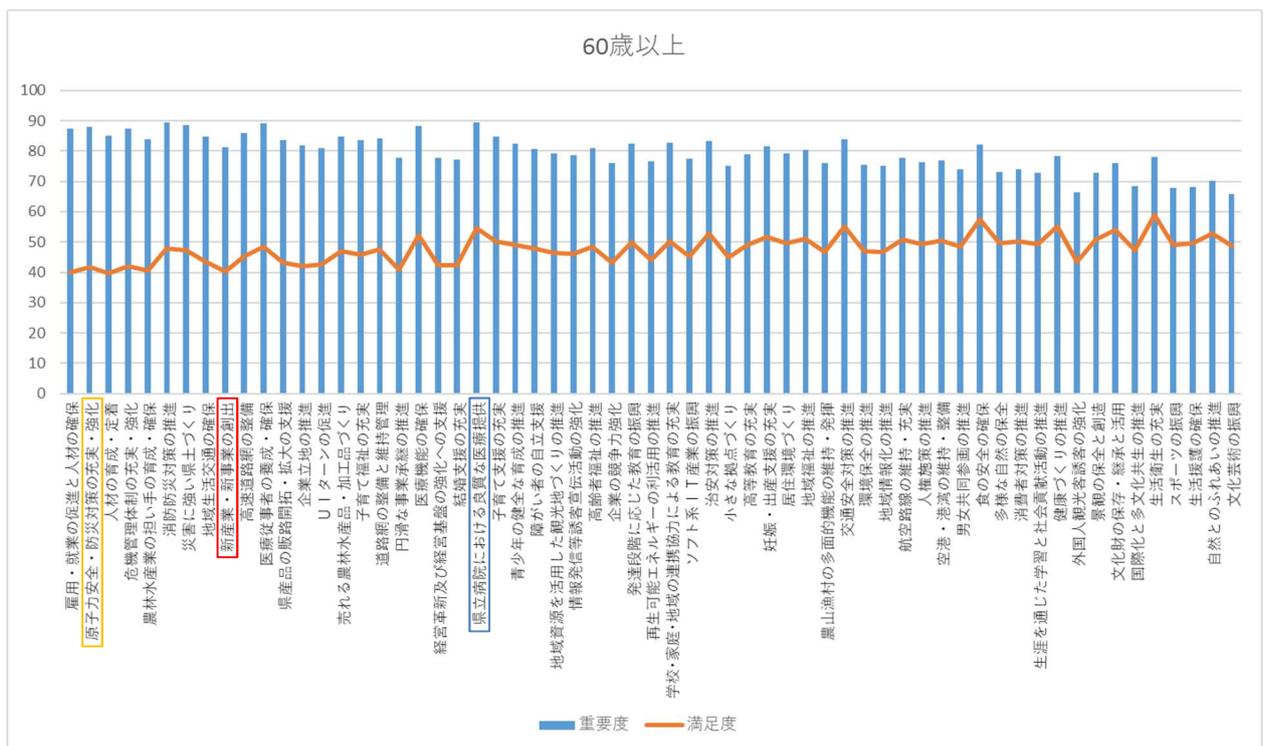
○ 18～39歳では、全年齢と比べ、「子育て支援の充実」、「子育て福祉の充実」及び「医療機能の確保」の重要度が高く、「新産業・新事業の創出」の満足度が低いという特徴が見られた。また、「子育て支援の充実」が、重要度と満足度の差が最も大きい施策だった。



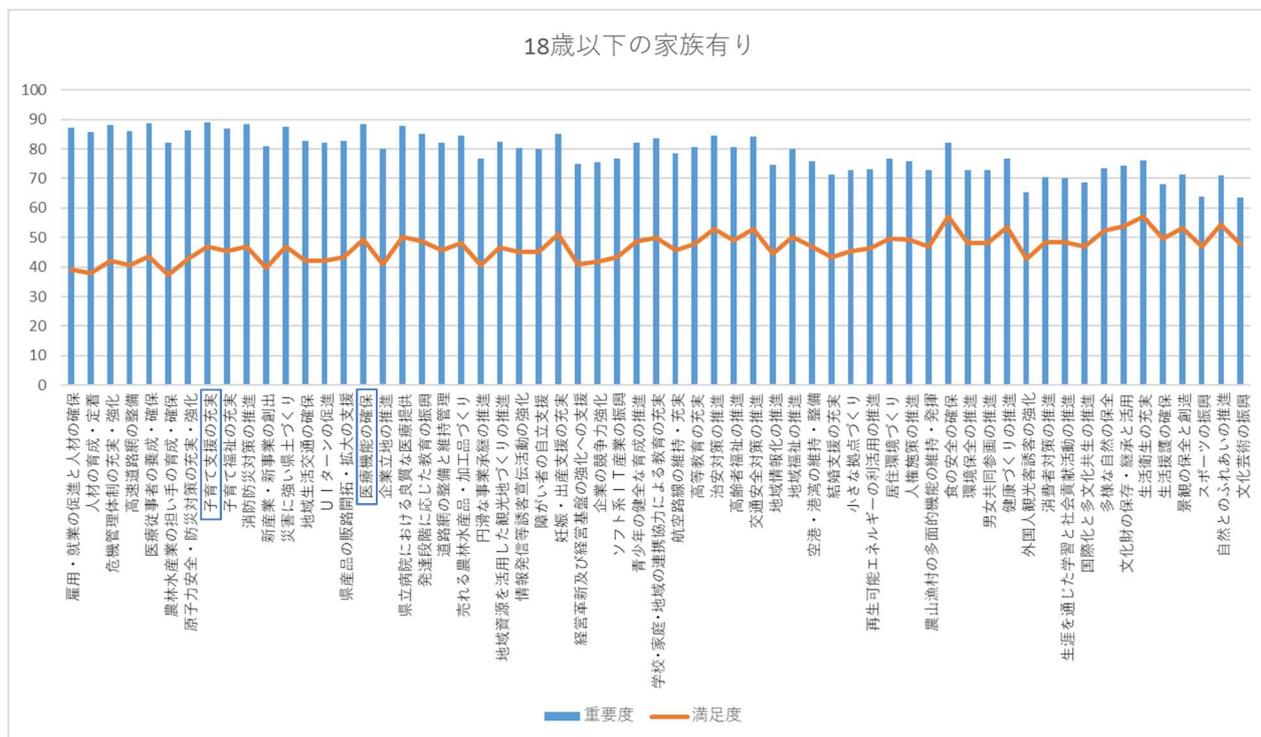
- 40～59歳では、全年齢と比べ、「医療機能の確保」及び「雇用・就業の促進と人材の確保」の重要度が高いという特徴が見られた。また、「農林水産業の担い手の育成・確保」が、重要度と満足度の差が大きい施策として上位に挙げられた。



- 60歳以上では、全年齢と比べ、「県立病院における良質な医療提供」の重要度が最も高く、「新産業・新事業の創出」の満足度が低いという特徴が見られた。また、「原子力安全・防災対策の充実・強化」が、重要度と満足度の差が大きい施策として上位に挙げられた。



○ また、18歳以下の同居家族がいる層では、全体と比べ、「子育て支援の充実」の重要度が最も高く、また「医療機能の確保」の重要度も高かった。



Ⅱ. 高等学校・特別支援学校高等部を卒業する生徒の意識調査

1. 調査の趣旨

- 高等学校・特別支援学校高等部を卒業する生徒に対し進路決定にあたっての意識や、地域の教育資源を活かした教育活動（ふるさと教育）の効果などに関する調査を実施し、今後の人材育成の方向性を検討するもの。

2. 調査の方法

- 県内の公立・私立高等学校及び特別支援学校を通じて、3年生全員にアンケートを実施。
 - ・調査期間：平成31年2月15日～3月8日
 - ・回収率：93.4%（回答人数5,880人／調査対象者数（クラス在籍者数）6,293名）

3. 調査結果

（1）ふるさと教育の教育効果

※ふるさと教育を受けたことがあると回答した4,315人（アンケート回答者の73%）が対象

- 地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等の知識が習得できた 89%
- ふるさとへの愛着や誇りを感じるようになった 83%
- 地域の方々との会話や接することで、コミュニケーションの力や思いやりの気持ちが身に付いた 83%
- 学ぶ喜びや充実感を味わい、学習意欲の向上につながった 82%
- 自分の将来像を描くことに影響している 45%
- 自分の進路決定に影響している 41%

（2）今後の地域や島根との関わりに対する意識

※アンケートに回答した5,880人が対象

- 卒業後も、自分が今住んでいる地域や島根県に関わりを持ち続けたいと思っている（県外からの関わりも含む） 74%
- 将来、自分が今住んでいる地域や島根県のために役に立ちたいと思っている（県外からの貢献も含む） 73%
- 将来、自分が今住んでいる地域や島根県で仕事をしたいと思っている 64%
- 将来、自分が今住んでいる地域や島根県をどんな地域にしたいか希望がある 50%